

一般交雑種用人工飼料「くわのはな」を用いた給餌回数の削減と虫繭質

福島県農業試験場梁川支場
平成16年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

蚕糸－育蚕－その他
分類コード 09-02-99000000

2 担当者

名倉明夫・瓜田章二

3 要 旨

1～3齢人工飼料育では各齢2～3回給餌を行うが、人工飼料育期間中の給餌回数の削減は、作業面や防疫面でメリットがある。現在県内で用いられる一般交雑種用人工飼料の「くわのはな」(群馬県稚蚕人工飼料センター製)は水分率の減少が従来の湯練り飼料より緩慢であり、給餌回数の削減に適する飼料と考えられる。そこで、「くわのはな」飼料を用いて、2・3齢期の給餌回数を削減して、その虫繭質について検討したところ、次の結果を得た。

- (1) 給餌回数を2齢期1回、3齢期2回に削減しても、蚕児の発育経過には、稚蚕期、さらに桑葉育へ移行後の壮蚕期ともに、慣行との差は認められなかった。
- (2) 給餌回数を削減すると、慣行よりも4齢期の遅れ蚕率がやや高く、化蛹歩合が低くなった。しかし、湯練り飼料を用いた給餌回数の削減と比べると、その化蛹歩合の低下の程度はかなり小さかった。
- (3) 繭重、繭層重、繭層歩合は、慣行との差は認められなかった。
- (4) 繭糸質についても、慣行と同等であった。
- (5) 3齢期の給餌回数を2回とする給餌量の配分は、1回目を40%、2回目を60%とすると化蛹歩合は慣行とほぼ同等となる等、良好な成績であった。
- (6) 以上から、「くわのはな」飼料を用いて給餌回数を削減すると、化蛹歩合は慣行よりもやや低下するが、その影響は小さく、3齢期の給餌量の配分によって化蛹歩合等の向上を図ることが可能と考えられた。

4 その他の資料等

なし